

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02104

研究課題名（和文）メキシコにおける中米移民の社会関係形成過程と生活世界の構造

研究課題名（英文）The formation of social relations and the structure of lifeworld of Central American migrants in Mexico

研究代表者

佐々木 祐（SASAKI, Tasuku）

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：90528960

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：アメリカ合衆国をさしあたりの目的地としながら、経済・治安状況の劣悪な中南米諸国を脱出して移動を続ける移民・難民申請者たちが構築する社会関係とその機能を現地調査を通じて明らかにした。経由地として当初は想定していたメキシコにおいて不確定な日常を長期間過ごす過程で、彼ら/彼女らが自己の社会的位置を普段に再構築していることを明らかにし、また諸社会集団と積極的な交渉を行なっていることの意味も分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代社会における共通の課題である移民・難民問題について、一方では送り出し国でありながら近年は特に受け入れ国としての役割を負わされているメキシコ社会を対象に、中南米（特に、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ベネズエラ、ハイチ）からの移動者たちが、大きな社会的構造の影響下におかれながらもいかに主体として自らの存在を再構築しているのかを明らかにした。また、そうした過程における諸社会組織との関連も明確にした。

研究成果の概要（英文）：Through field research, we have clarified the social relations and functions constructed by immigrants and refugee claimants who have fled from Latin American countries with poor economic and security conditions to continue their migration, with the United States as a preliminary destination. We also analyzed the significance of their active negotiations with various social groups.

研究分野：移民研究

キーワード：移民 難民 社会運動

1. 研究開始当初の背景

現代社会における共通の問題である移民・難民問題に関し、とりわけ近年中南米からの移民受け入れ国としての役割を負わされているメキシコに注目し、その社会的インパクトを明らかにすることが求められている。特に、受動的な存在としてではなく、移動を続ける人々の具体的な社会的実践の様相とその機能を明らかにすることが急務となっている。

また、こうした移動者たちの存在は社会構造やそこに生きる人々の意識を変容させている。従来移民の送り出し国であったメキシコにおいて、こうした他者との不断の交渉・出会いが日常化するなかで、いかにしてマジョリティであるメキシコ人たちが自らの存在を問い直しているのかを明らかにすることも必要となる。

研究を開始した 2019 年度は、旧来の硬直した政治構造の打破と社会の刷新を掲げるアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール政権がメキシコにおいて誕生したばかりであり、また移民の送り出し元である中米各国においても社会の再構築の必要性が強く認識されていた時期でもあった。また、アメリカ合衆国におけるドナルド・トランプ政権の強硬な移民政策が国内的にも国際的にも問題視されていた。こうした政治状況がいかに人々の流れやそれを支えるさまざまな実践に影響を与えているのかにも注目する必要がある。

2. 研究の目的

上述の背景を踏まえた上で、申請者のこれまでの調査研究経験を活かし、その移動のメカニズムやその過程における社会関係、また自己認識・自己規定の変化を社会学的に明らかにすることを目的とした。まず、移動・滞在過程における多様なアクターとの交渉を経て、どのように彼ら・彼女らが自己を再定義し、またよりよい移動・生活のためにどのように自己を呈示しているのかを明らかにすることが目的となる。また、政治的な理由で変更が繰り返されるアメリカ合衆国およびメキシコの移民政策に、法的なリソースに欠く移民たちがどのように対応しているのかについても明らかにすることが目的となる。

こうした社会的後期が現場でいかに織りなされているのかというミクロな視点と、マクロな政治的・法的・経済的変動が、人々の実践にどのように影響を与えているのかという観点の両面から、この問題を記述・分析することをめざした。こうした作業を通じ、顔のないマスとしての「群衆」の動態記述でもなく、また一方で過度に個人化された経験の寄せ集めでもない、大きな流れに巻き込まれながらもそれぞれの状況や周囲との相互作用によって行為決定する個々人の動きの集積効果として、国際的な人の動き内部の諸様相をより詳細に捉えることが可能となる。

3. 研究の方法

近年移民・難民申請者の滞在先となったメキシコシティの支援施設における参与観察を行い、当事者および支援組織関係者、また行政関係者の振る舞いや社会関係に関する質的なデータを収集する。また、そうした人の流れの量的・質的な変化もこれまでの研究を踏まえて通時的なデータとして整理することができる。こうして得られたデータを詳細に分析することで、日常実践を通じた移民・難民申請者たちの生活世界の構造と機能、またその変化や今後の方向性を明らかにすることができる。

また、生活の場でもあるこうした施設において、移動者としてではなく生活者・労働者としての彼ら彼女らがどのように日常を送っているのか、またそれが一方では移動プロセスとどのように関連しているのかについて、観察を通じてデータを収集・分析する。

さらに、メキシコ・中南米における社会運動の一つの特徴ともいえる、多様な社会的アクターとの連携のあり方にも注目する。メキシコ国内にて移民・難民支援に取り組む初祖機間のネットワークはもちろん、女性、LGBT、失踪者、労働運動、先住民運動といった多様な社会運動の相互作用とその影響についても、具体的なイベントや会議の場への参加を通じて分析を行う。

4. 研究成果

研究成果は、論文および学会報告として公開した。また、現在その成果をまとめた書籍の刊行を準備している。

主として以下の3点の研究成果があげられる

1. 現地調査による、メキシコにおける移民・難民状況の変化および当事者間の社会関係の分析
2. 文献・資料調査による、中央アメリカ・メキシコにおける「移動の文化」概念の明確化
3. 送り出し国における社会変容とより広範な「文化」に関する考察

研究成果は主として以下のような形で発表した（全て単独）

・主たる学会報告は以下のとおりである。

Sasaki, Tasuku, 2021, Being Migrant/Refugee as a Process of Accumulation of "Migrant Capital": The Case of Central American Migrants in Mexico, International UNION of ANTHROPOLOGICAL and ETHNOLOGICAL Sciences 2020 Congress

佐々木祐, 2021, 「移民資本」蓄積過程としての難民経験：メキシコにおける中米移民の事例から, 日本文化人類学会 第55回研究大会

さらに、以下の発表を行い、研究内容・知見の社会への還元を行なった。

-----, 2023, 移動の文化・文化の移動：メキシコにおける中米移民の経験から, 神戸大学文学部公開講座

また以下の学術論文を執筆した。

- , 2021, 「移動と暴力が交錯する生　メキシコにおける中米女性移民たち」, 田中他編『ジェンダー暴力の文化人類学』, 昭和堂
- , 2021, 「まだ見ぬ「われわれ」を創造する　中米移民の集会的実践の事例から」, 松田他編『集会的創造性』, 世界思想社
一般向けの解説書・記事としては以下のようなものがある。
- , 2020, 「移民という存在：移動・移民の社会学」, 白鳥他編『社会学』, 昭和堂
- , 2022, コラム「ことばの力に触れるということ」, 神戸新聞(5月29日)
- , 2023, 「「移動という日常」から考えてみること」, 神戸大学人文学研究科編『人文学を解き放つ』, 神戸大学出版局

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐々木 祐	4. 巻 1187
2. 論文標題 「新しい人間」の詩学 80年代ニカラグア『ボエシア・リブレ』と『ニカラウアック』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 180-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐々木 祐
2. 発表標題 「就労経験を「流用」する：技能実習生・インターンシップ生を中心に」
3. 学会等名 日本人口学会第74回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 佐々木祐
2. 発表標題 「移民資本」蓄積過程としての難民経験：メキシコにおける中米移民の事例から
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tasuku Sasaki
2. 発表標題 Being Migrant/Refugee as a Process of Accumulation of "Migrant Capital": The Case of Central American Migrants in Mexico
3. 学会等名 IUAES（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松田素二他編（佐々木祐分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山城印刷株式会社出版部	5. 総ページ数 372
3. 書名 日常実践の社会人間学：都市・抵抗・共同性	

1. 著者名 松田素二他編（佐々木祐分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 277
3. 書名 集合的創造性：コンヴィヴィアルな人間学のために	

1. 著者名 田中雅一他編（佐々木祐分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 445
3. 書名 ジェンダー暴力の文化人類学：家族・国家・ディアスポラ社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------